

神戸市立下畑台小学校 学校評価報告書

校園長名 水金 稔

記入者名 熊丸 拓

神戸の教育が目指す人間像	教育ビジョン	神戸が目指す これからの学校の姿
心豊かに たくましく生きる人間	自他を大切に 自ら考え 未来をつくる	人がつながり とともに創る みんなの学校

学校の校 目づ 標く	・ 自分やまわりの人を大切にして、いじめのない学校 ・ 地域とつながる学校
------------------	--

内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て た い 子 ど も の 姿	楽しい学校 下畑台 ～学び・仲間・げんきなあいさつ～					
	粘り強く取り組む子	言語活動の充実（話す・書く・聞く）	2	図書館司書と連携した読書活動や、振り返り、グループの話し合いなどを授業に取り入れているが、さらに学力向上に向けた取り組みが必要。	引き続き、基礎基本の定着に向けて取り組んでほしい。図書館司書との連携をさらに深め、充実させてほしい。	朝の読書活動を再び始め、落ち着いて1日がスタートできるようにする。より理解が進む、定着できるように授業改善に取り組む。
	思いやりのある子	道徳学習の充実（交換授業）	3	道徳の授業及び普段の生活の中でも思いやりや命を尊ぶ教育を実践した。	他者の気持ちを想像する力を身につけてほしい。	継続して道徳の授業や普段の生活の中で、思いやる心を育んでいく。
	進んであいさつができる子	代表委員会による児童主体のあいさつ運動を実施。	2	毎週の生活目標の中で目標を立て意欲的に取り組みを実施したが、全体での活動は十分とは言えない。	言葉遣いやあいさつは児童館や学童コーナーでも力を入れている。学校もがんばってほしい。言語環境を整えたい。我々大人が手本となり示していきたい。	5・6年生の委員会活動を中心に、全校生、全教職員でのあいさつ運動を行い、あいさつを当たり前にしていく。
必 須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組み	年3回のいじめアンケートを実施し、学年・学級を越えて見守っている。	3	年3回のいじめアンケートを実施し、トラブルの未然防止に努めた。情報共有を強化し、子供の話を聞くなどの対応を迅速に行った。	いじめはいけない、流されてはいけないと子供たちが書いていた。子供たちもよく考えている。	担任だけでなく、学年や専科教員など、チームで子供を見守り、すぐに連絡・共有できる体制を作っていく。
	②不登校支援の取組み	登校し辛い子供の居場所づくりとしてサポートルーム（そよかぜルーム）を開設した。子供や保護者の相談を聞き、それぞれに応じた支援を行っている。	4	そよかぜルームができて登校できるようになった子供もいる。	子供たちの居場所として必要な教室だと認識した。機能しているとのことで引き続ききめ細かな支援を行っていただきたい。	不登校支援対策委員会をその都度開き、児童本人、保護者、担任が抱え込まないように相談を強化する。
	③教職員の業務改善	業務改善のアイデアを出し合い、すぐに会議、反映できるようにしている。	3	すぐるやTeamsを活用して、会議の効率化、短縮化を進めた。	業務改善を進めながらも、魅力ある学校づくりに取り組んでほしい。	当たり前を当たり前と思わず、今まで当然にしてきたことにも目を向けて改善を進める。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐる活用、ホームページ等）	学校だより等、すぐるでの連絡を増やしているとともに、ホームページでも子供たちの様子を発信している。	4	学校だよりや連絡等、すぐるで多くの活用ができ、ペーパーレス化や情報発信に取り組めた。	学校運営協議会もすぐるを活用している。	さらにペーパーレス化を進めていく。ホームページの情報も更新頻度を上げていく。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある